

頭頸部癌学会は頭頸部癌の治療に携わる医師の学会で、主には耳鼻咽喉科（頭頸部外科）医で構成される学会です。しかし頭頸部癌は整容面、機能面から手術困難になりやすい部位に発生、進展していくことから放射線治療にも根治目的や周術期治療の一部、また緩和目的でと様々なシーンで大きな役割が期待されており、実は放射線治療医も参加、積極的に発表している学会です。

昨年に引き続き、ポスター会場ではみんなビールを片手に活発な議論が繰り広げられるなど和気藹々とした学会です。

自分も放射線治療医ばかりが集まる学会だけではなく、積極的に臓器領域特異的な学会への参加することが重要ではないかと考えていることもあり、毎年発表を目標に、昨年 2025 年の札幌に続き、今年 2026 年の新宿にも参加、発表させていただきました。今年は様々な先生方のご厚意でシンポジウムにも登壇させていただき、粒子線治療について私見を述べるとともに一緒に登壇したシンポジストの先生方、座長の先生方をはじめ、放射線治療の各領域において最前線で活躍されている先生方から強い刺激を受け、自分自身の努力の余地も強く感じる事となった 2 日間でした。

